

在宅高齢者の服薬支援における介護支援専門員と 薬剤師との連携の現状と課題

—— 服薬アセスメントについてアンケート・インタビュー調査結果から ——

西澤 文恵

社会福祉法人台東区社会福祉事業団

【要旨】 多くの高齢者は複数の慢性疾患を保有しているため、薬物療法を必要としている。その薬物療法が安全かつ効果的に行われるためには、高齢者の服薬アドヒアランスの向上が重要である。しかし高齢者が抱える多くの疾患上、機能上、社会的な要因から多剤併用や残薬等が問題となっている。2018年介護報酬改定において、介護支援専門員はモニタリングの際にその知り得た情報を医師・薬剤師等に報告する義務、薬剤師は利用者の薬の一元化と在宅においては介護支援専門員と連携・協働が求められた。その背景から介護支援専門員が利用者の服薬に関するアセスメントをどのように行い、どう連携を図っているかを調査し、現状とその課題を考察する。

【研究目的】 介護支援専門員の行う服薬に関する情報収集の過程を調査し、薬局・薬剤師と介護支援専門員との連携の推進を図ることを目的とする。

【研究方法】

1) ①A 法人の居宅介護支援事業所（3箇所）に勤務する主任介護支援専門員と介護支援専門員13名に「薬局・薬剤師の連携について」アンケート実施。

②A 法人の居宅介護支援事業所（3箇所）の主任介護支援専門員と介護支援専門員（経験年数12年、8年、3年）3名に「服薬アセスメントについて」インタビューを実施。

2) ①②の調査結果からロジックツリーを用いて課題を明確化し、対応策を探る。

【倫理的配慮】 アンケート・インタビュー調査実施に際し、法人所轄と各介護支援専門員に書面と口頭で説明し同意を得、法人名および個人が特定されないよう配慮した。

【研究結果】

1) ①アンケート調査結果

A 法人の介護支援専門員13名中12名より回答（回収率92%）。介護支援専門員と薬局・薬剤師との情報共有の場面であるサービス担当者会議への参加依頼について12名中7名（58.3%）が「依頼をしていない」と回答。また退院時に薬が変更になった場合、どの職種と連携をするかの質問では「訪問看護師」が12名中8名（66.7%）と高く、「薬局・薬剤師」との連携は2名（16.7%）と低かった。

②インタビューの要約から8つのカテゴリー「薬局・薬剤師のアセスメント」「利用者のアセスメン

ト」「利用者の内服管理の必要性」「内服支援の困難さ」「薬局・薬剤師との連携の困難さ」「薬剤師との連携ができない理由」「薬剤師との連携上手くいった理由」が抽出された。

2) ロジックツリー（Why ツリー）を用いて構造化。介護支援専門員は「薬局・薬剤師の役割を理解していない」「薬局・薬剤師との連携の必要性を理解していない」「薬局・薬剤師と連携を図っていない」という3つ因子を抽出し、連携・共有のためのフェース・アセスメントシートの改善とモニタリングシートの開発を行った。

【考察及び結論】 新たなアセスメント・モニタリングシートの改善・開発、またそれらの活用は、山路ら¹⁾が服薬支援の課題として指摘する①<支援者間の情報共有と連携>において、改善・開発したツールにより、薬についての相談先、連絡先が明確になる。②<服薬支援のための体制整備>では、ツールにより得た情報を本人等や多職種と情報共有することで在宅高齢者の服薬の安全性の確保につながる。③<高齢者の能力と生活にあった対応>については介護支援専門員と薬局・薬剤師が協働し、双方が利用者への的確に説明等を行うことで、利用者は自ら薬を選択でき、そのことは服薬アドヒアランスの向上へとつながると考察する。

【参考文献】

1) 山路由実子, 市川周平, 竹村洋典 (2017) 『我が国における在宅高齢者への服薬支援の状況と課題に関する文献的検討』 日本プライマリ・ケア学会誌 vol. 40, no. 3 [136-142]